

# すべて県産材でエコ園舎

ビオ・ハウス・ジャパン

## 素材感生かす4面背割材使用

オール県産材を使った木造のエコ園舎の建設が進められており、このほど構造見学会が開催された。八幡幼稚園（群馬県高崎市、中曽根一技理事長）がそれ。設計はビオ・ハウス・ジャパン一級建築士事務所（前橋市、石川恒夫代表）、木材納入は小井土製材（群馬県甘楽郡、小井土文雄社長）。

建設中の園舎は、木造在来工法による平屋建ての4つの保育室と2階建ての遊戯室（吹き抜け、2階に事務室）などで構成され、延べ床面積は約700

平方メートル。木材使用量は160立方メートルで、すべて県産材を活用している（09年度人と木のふれあい推進事業採択）。この園舎はNEDOの助成（住宅・建築物高効率エネルギーシス

テム導入促進事業）も受けており、自然エネルギー（太陽熱、地熱、井水など）を利用して、地域・地球環境に負荷を掛けないこと

を目指している。

正面玄関、遊戯室の丸柱には、07年12月に設計事務所と製材工場が協力して行った新月伐採樹を使用している。このほ



建設中の園舎

か構造材をはじめ、天井は厚さ90ミリの釘打ち集積パネル（BSパネル、900×2700ミリの接着材を使わないのでリサイクル可能。そのまま内

装仕上げとなる）で被い、床は厚さ30ミリの杉床板を使用。木材は厚さ、太さを持たせて本物の素材感を伝え、強い躯体で子どもたちを守ると同時にコミュニケーションの材料としての役割も果たしている。

木材を納入した小井土製材は、木屑焚きボイラーによる木材乾燥を行っており、地産地消を推進するとともにウッドマイレージや循環型の観点からも同社の製品が使われている。